

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

|                 |  |
|-----------------|--|
| 会 議 名           | 令和5年度第2回高松市地域部活動検討委員会  |
| 開 催 日 時         | 令和6年2月21日（水）10時00分～11時40分  |
| 開 催 場 所         | 高松市役所 11階 110会議室   |
| 議 題             | 1. 令和5年度の取組について<br>(1) 4実証事業<br>(2) 学校部活動の現状<br>2. 令和6年度の取組について<br>(1) 外部人材の配置強化<br>(2) 学校の困り感等の実態把握<br>(3) 実証事業<br>3. 今後のスケジュールについて |
| 公開の区分           | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開                                    |
| 上 記 理 由         |  |
| 出 席 委 員         | 野崎委員、川上委員、真鍋委員、大谷委員、池田委員、谷委員、植松委員、大西委員、河野委員、西山委員、臼井委員  |
| 傍 聴 者           | 0人（定員3人）   |
| 担 当 課 及 び 連 絡 先 | 保健体育課 087-839-2657   |

### 会議の経過及び結果

委員長から本日の予定及び会議公開の確認の後、以下の議題について協議した。

#### 1-(1) 4実証事業について

事務局から説明（資料 No. 2～No. 9）

#### 1-(1) についての質疑応答

（委員長）

学校部活動は学校教育にとって非常に重要で、学校経営においても大切なものであるということは、広く認知されているところである。学校の教員も部活動を充実させたいと思っている。また、「教員の働き方改革」を進めていく中での取組であるとも考えている。

今年度は、「ストリートダンスの実施」、「大学生の活用」、「地域の既存団体との連携」、「民間委託業者の活用」を実証事業で行ったという報告であった。「ストリートダンス」の指導者は、高松市スポーツ協会の「TASS」からの派遣であったが、今後も継続してかかわっていただける方なのか。

（事務局）

ストリートダンスの指導者には、来年度も継続してほしいと考えている。今年度の取組は、8月以外はすべて土曜日の午後で開催した。その理由としては、「日曜日は家庭に返す」、「土曜日の午前は部活動の練習が多い」の二点である。しかし、参加者が所属している部活動の練習等と重なり参加ができないことがあったり、指導者から日曜日のほうが時間的には都合がよいと

いう意見があった。次年度以降に実施する際には、曜日や時間帯を検討する必要もあるのではないかと考えている。

(委員長)

今年度参加した人で、来年度も参加したいという要望はあるのか。

(事務局)

3年生で参加していた人の中にも、来年度参加できるのであれば参加したいという意見や、兄弟姉妹で参加していた人も来年度も参加したいと話す人もいた。

## 1-(2) 学校部活動の現状について

事務局から説明（資料 No. 10～No. 14）

### 1-(2) についての質問

(委員長)

資料 No. 10 では、高松市内の中学生の 90% の生徒が何らかの部活動に所属しており、生徒・保護者ともに満足度は高い状況であることがわかる。一方、教職員は 60% の人が何らかの負担を感じている状況である。これは、学習指導要領の改訂の中で、教職員の仕事量がどんどん膨らんでいる状況になっていることが関連しており、決して部活動が嫌だということではなく、仕事の総量が増えていく中で部活動の顧問をすることが負担になっているのが現状だと考えられる。

資料 No. 11 を見ると、3 年間で運動部活動数は若干減少している。生徒数の減少に伴って入部率も徐々に減少しており、部員数が少なくなると、充実した活動が難しくなることにつながっていくのではないかと思う。

(事務局)

かつては運動部の入部率が 70% を超える状況であった。近年、生徒の選択肢が多様化していると考えられる。運動部の入部者数の減少は懸念している。

(委員長)

生徒数の減少は 3 年間で 200 名程度となっているが、他市町では大きく減少しているところもあり、その中でも入部者の減少は懸念材料の一つであると感じている。

(委員)

生徒数が減れば教員の数も減ると思うが、そこはどうなっているか。

(事務局)

高松市立学校の教職員については県費負担教職員であり、香川県教育委員会の配置となっており、教職員数は学級数によって決まる。多くの場合は、生徒数が減ると学級数も減るため、教職員の数も減ることになる。

(委員)

地域移行を進めるに当たり、地域で活動するには予算が必要になってくるが、その予算を教職員に充てて部活動を担当する教職員の数を維持することはできないか。また、教職員の働き方改革についても、フレックス制を導入し、朝から勤務する教職員と、午後から勤務して部活動も指導する教職員というような工夫はできないか。子どもたちが部活動に所属することで、クラスを超えた友だちができたり学校での学びの場になったりすると考えており、地域移行に向けた実証事業の取組もすごくいいなと聞いていたが、教職員のフレックス制等、「高松型の取組」を考えていくことも必要ではないかと考えている。

(委員長)

教職員の数については、国の指針等もあり、県教育委員会や市教育委員会で自由に行うことは難しいものがある。現在、学校では 35 人学級で運営している。それを 30 人学級や 25 人学級にすれば、教職員の数も増え、充実した教育活動が実践されるのではないかと考え、各方面から要望もしているが、なかなか実現されない状況である。

(委員)

現状で何かをしようとするから歪みが出てきていると思う。世情も変化している中で、予算の配分ややり方等も考えていく必要があると思う。

(委員長)

できることを柔軟に模索していくことはとても大切だと思うので、教育委員会でも検討していただきたい。

(委員)

子どもの減少は日本全国で右肩下がりになっている。それに伴いスポーツ少年団への加入者も減少傾向にある。その状況が中学校にも影響しているのではないか。スポーツ少年団は保護者の協力があって成立していることもあるが、中学校の部活動ではそこまでの保護者の協力はなく中での活動になっていると思う。部活動が地域移行すれば、子どもの送迎等の保護者の負担が増えるため、問題も出てくるのではないかという意見も聞いている。

今回の実証事業は、休日の活動ということでもうまくいっているが、将来は平日にも広がっていくことを考えると、移動や経費の問題等が出てくると思う。どうすれば多くの課題を克服できるのかをスピーディーに検討していただきたいと思う。

また、中学校体育連盟（以下中体連という。）についても、運営方法等で従来のやり方を踏襲するだけでなく、現状に合った方法を考えていただきたい。将来、「やりたいけれどできない子ども」が出てこないようにすることが大人の役割だと思う。みんなで前向きに考えていきたい。

(委員長)

地域移行となると、経費や人的な問題等が発生してくる。また、「やりたいけれどできない」という子どもが出てこないよう、競技団体、学校、地域が考えていかなければならないのではないかという意見であったと思う。スポーツ少年団では合同チームという動きはあるか。

(委員)

スポーツ少年団が各競技の大会に出場する際には、主催者は各競技団体となるため、その競技団体の取り決めが優先される。各競技団体にも柔軟に考えていただきたいと思っている。

高松市スポーツ少年団が主催する大会については、子どもが参加しやすいように柔軟に考え実施している。J S P O（日本スポーツ協会）主催の大会では難しいが、地方の大会は柔軟に行うことが可能ではないかと考えている。中体連も柔軟に考えていただきたい。

(委員)

高松市内の学童の軟式野球新人大会では、30チーム中5チームが合同チームで、以前よりも増えてきている状況である。

(委員長)

中体連の大会について、実証事例②の軟式野球のチームについては2校の合同チームで行っているが、資料 No. 12にある新人大会に合同チームで参加したチームの今後の活動はどうなっていくのか。

(事務局)

合同チームの規定は、日本中体連の規定によるものである。また、この規定では合同チームが結成できるのは、団体種目だけの競技に限られており、剣道等の団体戦と個人戦が両方ある競技は認められていない。また、人数が足りず大会に出場できない生徒を救済することが目的であり、強化を目的としたものではない。4月以降、1年生等の新入部員が加入し、人数が足りた場合は、現状の規定では合同チームでの参加はできなくなる。

しかし、令和5年度に四国ブロックで開催された「全国中学校体育大会（以下全中大会という。）」から、クラブチームの参加が認められるとともに、「拠点校型部活動」という形で人数が足りている同士の合同チームの参加も認められるなど、柔軟な体制に変わってきている。高松市では対象校はないが、将来的には考えていくことも必要でないかと考えている。

(委員)

地区中体連主催の大会については、全中大会等の上位大会につながるものであることから、上位大会の基準に準じて行う必要があるが、今後、地域移行や合同チームの問題等を踏まえた検討

を行っていくと聞いている。学級数の減少のために教員数が減っているが、部活動数は多いため顧問が一人で部活動指導を行っている場合もある。部活動を減らしていけば負担軽減につながると思うが、そうすると「やりたいけれどもできない子ども」が出てしまう。そのような子どもを救済するために、「地域移行」や「拠点校方式」という考えが出てきたのだと思う。学校にやりたい運動部がないため、文化部に入部している生徒もおり、部によっては3学年で50名を超える部もある。中体連としては、そういった「やりたいけれどもできない子ども」が何とか活動できる方法として「拠点校部活動」等の方法を考えている。この検討委員会でも、「やりたいけれどもできない子ども」が活動できる方法を検討していきたい。

(委員長)

全国で様々な検討が行われており、学校部活動の在り方も変わっていきこうとしている中で、高松市として子どもたちのためにより良いやり方を考えていきたいという話であったと思う。

## 2-(1) 外部人材の配置強化について

事務局から説明（資料 No. 15 及び No. 16）

### 2-(1) についての質問

(委員長)

部活動指導員については、勤務条件や責任等いろいろと難しい面もあり普及していないが、令和6年度は拡充したいという話であった。

(委員)

各校にある部活動が運営できる指導者数のデータがあった方が、確保すべき人数や予算額も出しやすいのではないかと。

(事務局)

その点は次に説明していく。

(委員長)

今年度の予算で最大配置人数は何人と見込んでいたのか。

(事務局)

今年度については、12人の配置が可能な予算を組んでいたが、7人の配置となった。

## 2-(2) 学校の困り感の実態把握について

事務局から説明（資料 No. 15 及び No. 17）

### 2-(2) についての質問

(委員長)

総括コーディネーターはどのような方を想定しているか。

(事務局)

総括コーディネーターについては、現在、選定中であり、先駆者になっていただく大切な役割であると考えている。

## 2-(3) 実証事業及び3 今後のスケジュールについて

事務局から説明（資料 No. 18 及び No. 19）

### 2-(3) 及び3 についての質問

(委員長)

資料 No. 17 にあるように、コーディネーターが各学校の実態把握を行い、マッチングしていく仕組みを考えていくということが大きなポイントである。また、資料 No. 18 のモデル事業も学校に早くお願いし、二つがうまくリンクしていけばいいのではないかと。

(委員)

いろいろと調べると、現在の部活動は明治時代から続いているらしい。今、地域移行について

考えているが、今後100年続いていくやり方を考えるといった視点をもつことも大切ではないかと思う。総括コーディネーターやコーディネーターの方が、学校の現状把握等を行っていく上でも、この考えがあれば検証の方法も変わってくると思う。

(委員)

部活動の指導者は、チームの監督だけでなく、コーチやトレーナー、時にはマネージャーの役割も求められることがあるなど、負担が大きいと感じている。地域移行の指導者には、技術指導だけでなく、そういった役割もあるという認識が必要だと考える。中学校の部活動の地域移行という言葉が使われているが、中学校の問題だけでなく、いかに地域に溶け込んで地域の協力が得られるかということが大切になってくる。今後は、「地域への移行」を一つのキャッチフレーズにして地域の方々をお願いしていくことが必要であると考えている。施設面についても、中学校の施設だけでなく、地域の施設も使えるようなことを考えていくことも必要であると考えている。

(委員)

文化部について、モデル事業の成果や課題を見ると、当初に考えていた内容と一致していた。部活動ガイドラインができた時も、一律の活動時間等に困惑した経験があるが、地域移行についても指導者の確保等で課題が出てくると考えられるため、吹奏楽連盟としても注視している。吹奏楽連盟としても大会参加の規定が変更され、少子化対策の観点から「地域バンド」、「合同バンド」も参加ができるようになった。

(委員長)

部活動の地域移行は全国的な大きな問題だと思うが、高松市の実態に即した改革を進めていけるよう、今後も協力いただければと思う。

(事務局)

皆様方からいただいた貴重な御意見を今後の施策に生かしていきたい。今後も本事業に対してアドバイスをいただければと思う。

(閉会)